

平成 27 年 6 月の熱中症による救急搬送の状況

平成 27 年 6 月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）を
取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成 27 年 6 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 3,032 人でした。これは 5 月の救急搬送人員数 2,904 人と比べると 128 人増となっています。環境省で発表する暑さ指数（WBGT）の最高値が 25℃～28℃を示す警戒以上を観測した全国の県庁所在地の総数が前月より増加したこと、沖縄や奄美の月平均気温が平年比+1.8℃と、気象庁が統計を取り始めて以降 6 月としては最も高温になったことなどが要因として考えられます。昨年と同時期と比べると減少（平成 26 年 6 月は 4,634 人であり 1,602 人減）していますが、今後梅雨明けとともに気温が上昇してくる可能性が高いため、引き続き警戒が必要です。
- 救急搬送の状況の内訳については次の通りです。
 - 救急搬送人員数の年齢区分では高齢者（65 歳以上）が 1,525 人と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）1,010 人、少年（7 歳以上 18 歳未満）457 人、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）40 人の順となっています。
 - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 2,002 人、次いで中等症 928 人、重症 64 人、死亡 2 人となっています。
 - 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数は、沖縄県が最も多く 18.81 人であり、次いで岡山県 4.42 人、佐賀県 4.00 人の順となっています。
- 熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくいと、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

以下の HP にて、熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を公表しています。また、ツイッターを通じた注意喚起も行っています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2705/pdf/270501-1.pdf>

【資料】平成27年6月の熱中症による救急搬送状況



（連絡先）

消防庁救急企画室

担当：寺谷、平井、足立

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539

平成 27 年 6 月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成27年6月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総 数

平成 27 年 6 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 3,032 人でした。これは5月の救急搬送人員数 2,904 人と比べると 128 人増となっています。環境省で発表する暑さ指数（WBGT）の最高値が 25℃～28℃を示す警戒以上を観測した全国の県庁所在地の総数が前月より増加したこと、沖縄や奄美の月平均気温が平年比+1.8℃と、気象庁が統計を取り始めて以降6月としては最も高温になったことなどが要因として考えられます。昨年の同時期と比べると減少（平成 26 年 6 月は 4,634 人であり 1,602 人減）していますが、今後梅雨明けとともに気温が上昇してくる可能性が高いため、引き続き警戒が必要です。

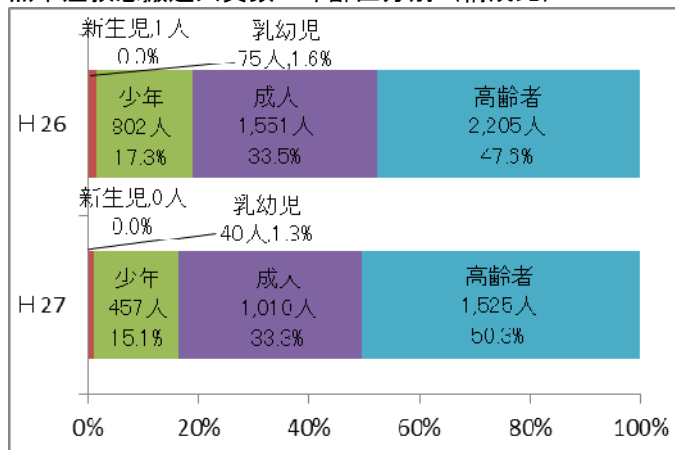
（資料 1、5、6、7）

2 内 訳

（1）年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者（65 歳以上）が 1,525 人（50.3%）と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）1,010 人（33.3%）、少年（7 歳以上 18 歳未満）457 人（15.1%）、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）40 人（1.3%）の順となっています。（資料 1）

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別（構成比）



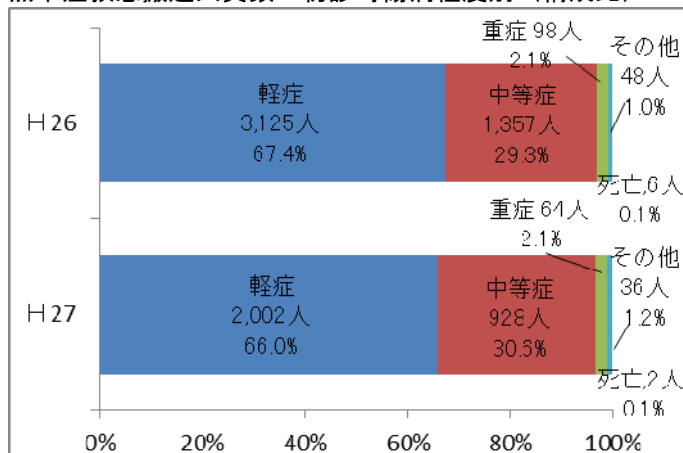
凡例

新生児：生後 28 日未満の者
 乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者
 少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者
 成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者
 高齢者：満 65 歳以上の者

（2）医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く 2,002 人（66.0%）、次いで中等症 928 人（30.6%）、重症 64 人（2.1%）、死亡 2 人（0.1%）となっています。（資料 1）

熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別（構成比）

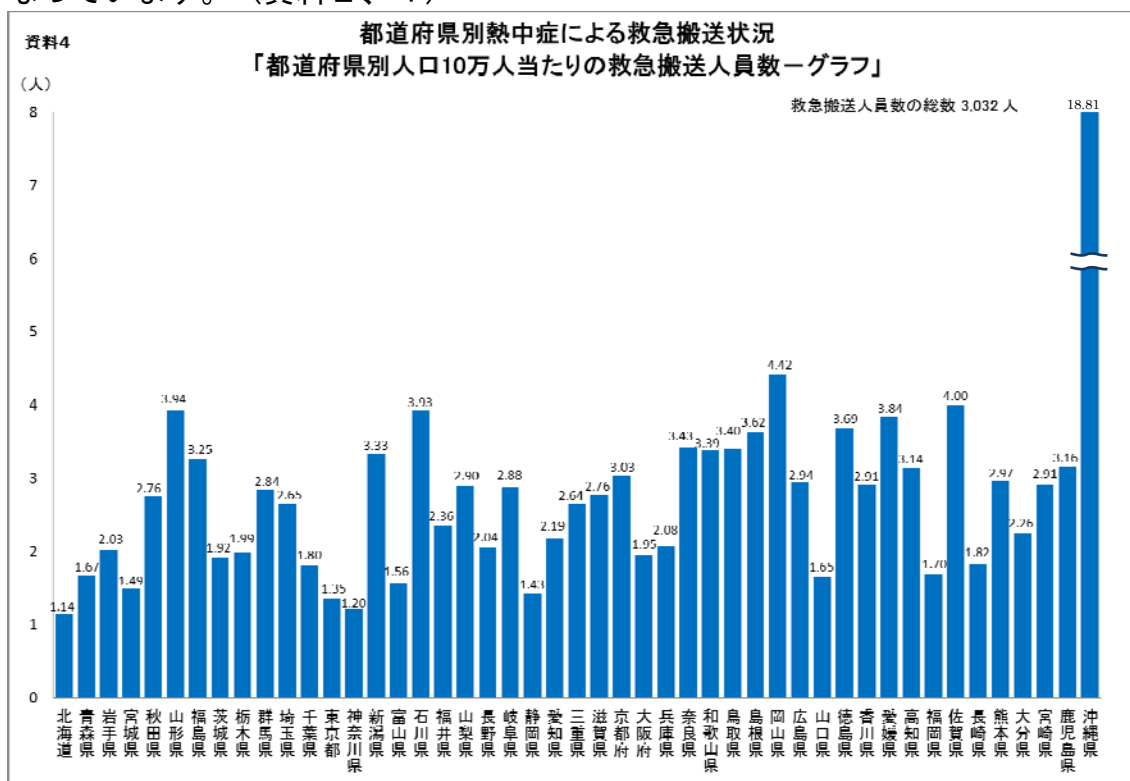


凡例

軽 症：入院を必要としないもの
 中 等 症：重症または軽症以外のもの
 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上
 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの
 その他：医師の診断がないもの、傷病程度が判明しないもの、その他の場所に搬送したもの

(3) 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数

沖縄県が最も多く 18.81 人であり、次いで岡山県 4.42 人、佐賀県 4.00 人の順となっています。(資料 2、4)



3 その他

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

消防庁では、以下の HP にて、熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を公表しています。また、ツイッターを通じた注意喚起も行っています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2705/pdf/270501-1.pdf>

参考 (気象庁「6月の天候」より)

梅雨前線が西日本の南岸から東日本の南海上に停滞することが多く、活動が活発だった。このため西日本では月平均気温は低く、月間日照時間は西日本太平洋側でかなり少なく西日本日本海側で少なかった。東北地方の梅雨入りはかなり遅く、月間日照時間は多かった。東北南部では 26 日ごろ (1951 年以降、遅い方からの 1 位タイ)、東北北部では 27 日ごろ梅雨入りした。

太平洋高気圧の日本の南から沖縄付近への張り出しが強かったことにより、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすく晴れて日射が強かったことに加えて、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、沖縄・奄美の月平均気温は平年比+1.8℃と、6 月としては最も高温となった (統計開始は 1946 年)。また、月間日照時間はかなり多く、月降水量は少なかった。なお、太平洋高気圧に覆われやすかった沖縄地方では、平年よりかなり早い 11 日ごろに梅雨明けした (速報値)。

平成 27 年 6 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 2 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「救急搬送人員数昨年比一表」
- 資料 3 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「救急搬送人員数昨年比一グラフ」
- 資料 4 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数一グラフ」
- 資料 5 全国の熱中症による救急搬送状況
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 6 日別の救急搬送人員数（全国）と暑さ指数（WBGT）との比較一グラフ
- 資料 7 平成 22 年～27 年の熱中症による救急搬送人員数及び死亡者数一覧一表
- 資料 8 平成 27 年の熱中症による救急搬送状況（週別推移）一グラフ

資料1

都道府県別熱中症による救急搬送状況
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

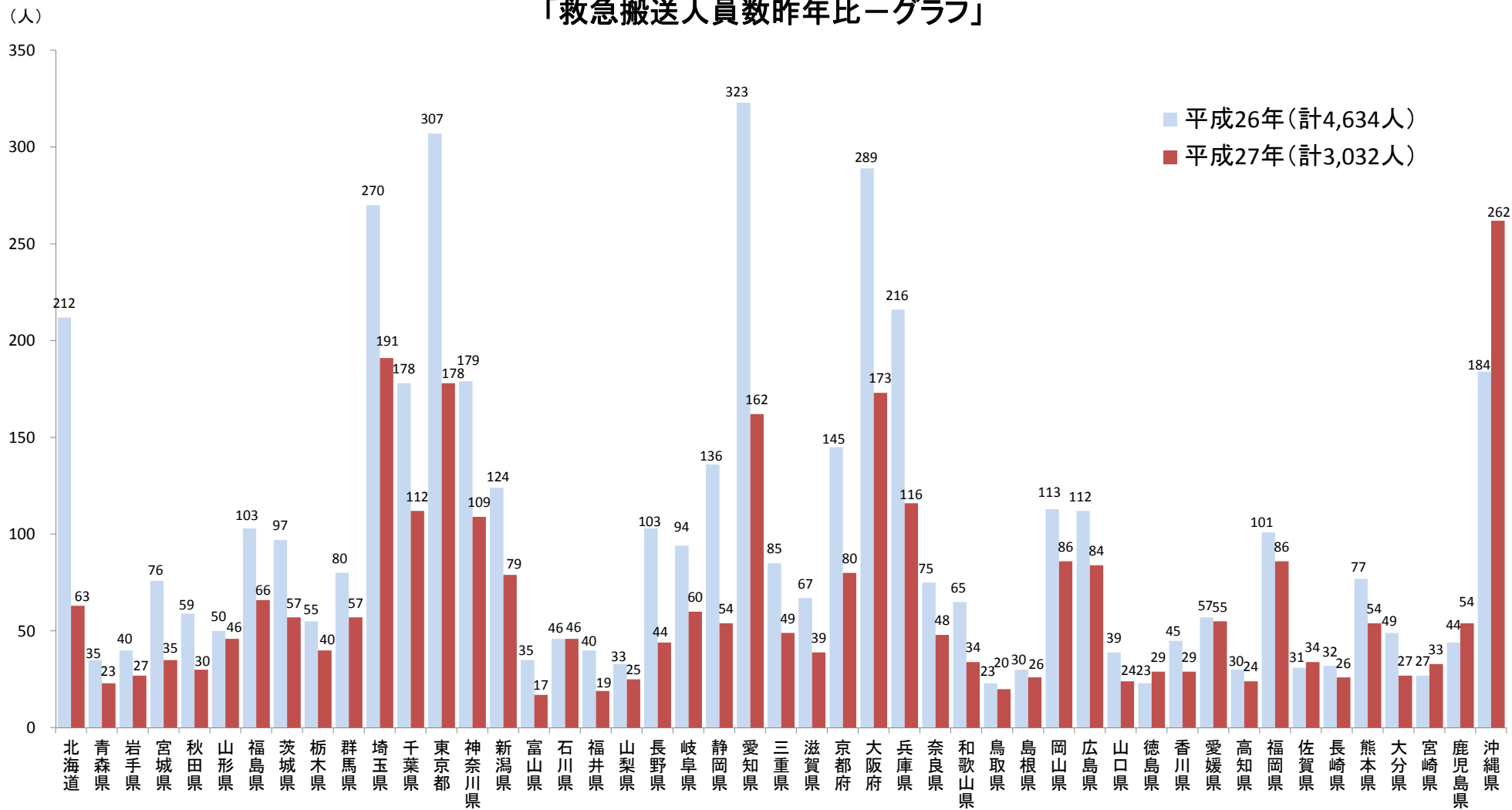
都道府県		平成27年6月1日～6月30日											
		年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	3	6	15	39	63	0	3	19	40	1	63
2	青森県	0	0	6	7	10	23	0	0	8	15	0	23
3	岩手県	0	0	4	7	16	27	0	1	6	20	0	27
4	宮城県	0	1	10	9	15	35	0	1	16	18	0	35
5	秋田県	0	0	4	10	16	30	0	1	11	18	0	30
6	山形県	0	0	10	17	19	46	1	3	14	26	2	46
7	福島県	0	0	8	22	36	66	0	0	18	48	0	66
8	茨城県	0	0	8	20	29	57	0	0	22	35	0	57
9	栃木県	0	0	6	13	21	40	0	0	8	32	0	40
10	群馬県	0	2	9	20	26	57	0	2	18	37	0	57
11	埼玉県	0	2	32	65	92	191	0	3	68	120	0	191
12	千葉県	0	3	18	47	44	112	0	1	28	83	0	112
13	東京都	0	3	13	78	84	178	0	7	67	104	0	178
14	神奈川県	0	1	26	33	49	109	0	3	39	67	0	109
15	新潟県	0	1	16	22	40	79	0	2	19	55	3	79
16	富山県	0	0	2	8	7	17	0	0	5	12	0	17
17	石川県	0	5	7	16	18	46	0	2	5	39	0	46
18	福井県	0	0	1	5	13	19	0	1	10	8	0	19
19	山梨県	0	1	4	7	13	25	0	1	13	11	0	25
20	長野県	0	0	5	15	24	44	0	1	16	27	0	44
21	岐阜県	0	0	7	25	28	60	0	0	26	34	0	60
22	静岡県	0	0	7	16	31	54	0	0	11	43	0	54
23	愛知県	0	0	26	60	76	162	0	1	49	112	0	162
24	三重県	0	0	6	15	28	49	0	1	14	28	6	49
25	滋賀県	0	0	7	11	21	39	0	0	10	28	1	39
26	京都府	0	0	5	25	50	80	0	3	18	59	0	80
27	大阪府	0	3	23	62	85	173	0	0	45	128	0	173
28	兵庫県	0	2	22	37	55	116	0	3	30	83	0	116
29	奈良県	0	0	8	21	19	48	0	0	13	35	0	48
30	和歌山県	0	2	2	14	16	34	0	0	8	25	1	34
31	鳥取県	0	0	4	4	12	20	0	0	15	5	0	20
32	島根県	0	0	3	6	17	26	0	1	11	14	0	26
33	岡山県	0	1	10	17	58	86	1	3	24	54	4	86
34	広島県	0	0	3	20	61	84	0	2	23	59	0	84
35	山口県	0	1	2	4	17	24	0	1	6	17	0	24
36	徳島県	0	0	5	6	18	29	0	1	9	18	1	29
37	香川県	0	2	6	8	13	29	0	2	8	19	0	29
38	愛媛県	0	1	8	13	33	55	0	1	14	40	0	55
39	高知県	0	1	3	6	14	24	0	0	6	18	0	24
40	福岡県	0	1	11	25	49	86	0	1	46	39	0	86
41	佐賀県	0	0	3	12	19	34	0	1	8	25	0	34
42	長崎県	0	0	6	11	9	26	0	0	10	16	0	26
43	熊本県	0	1	10	14	29	54	0	0	22	32	0	54
44	大分県	0	0	5	12	10	27	0	0	10	17	0	27
45	宮崎県	0	0	7	8	18	33	0	1	9	23	0	33
46	鹿児島県	0	0	7	20	27	54	0	0	21	33	0	54
47	沖縄県	0	3	56	102	101	262	0	10	52	183	17	262
合計【人】		0	40	457	1,010	1,525	3,032	2	64	928	2,002	36	3,032
割合		0.0%	1.3%	15.1%	33.3%	50.3%	100.0%	0.1%	2.1%	30.6%	66.0%	1.2%	100.0%

都道府県別熱中症による救急搬送状況
「救急搬送人員数昨年比一表」

都道府県	6月1日～6月30日			
	平成26年熱中症 救急搬送人員数 (人)	平成27年熱中症 救急搬送人員数 (人)	うち人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	昨年比(倍)
1 北海道	212	63	1.14	0.3
2 青森県	35	23	1.67	0.7
3 岩手県	40	27	2.03	0.7
4 宮城県	76	35	1.49	0.5
5 秋田県	59	30	2.76	0.5
6 山形県	50	46	3.94	0.9
7 福島県	103	66	3.25	0.6
8 茨城県	97	57	1.92	0.6
9 栃木県	55	40	1.99	0.7
10 群馬県	80	57	2.84	0.7
11 埼玉県	270	191	2.65	0.7
12 千葉県	178	112	1.80	0.6
13 東京都	307	178	1.35	0.6
14 神奈川県	179	109	1.20	0.6
15 新潟県	124	79	3.33	0.6
16 富山県	35	17	1.56	0.5
17 石川県	46	46	3.93	1.0
18 福井県	40	19	2.36	0.5
19 山梨県	33	25	2.90	0.8
20 長野県	103	44	2.04	0.4
21 岐阜県	94	60	2.88	0.6
22 静岡県	136	54	1.43	0.4
23 愛知県	323	162	2.19	0.5
24 三重県	85	49	2.64	0.6
25 滋賀県	67	39	2.76	0.6
26 京都府	145	80	3.03	0.6
27 大阪府	289	173	1.95	0.6
28 兵庫県	216	116	2.08	0.5
29 奈良県	75	48	3.43	0.6
30 和歌山県	65	34	3.39	0.5
31 鳥取県	23	20	3.40	0.9
32 島根県	30	26	3.62	0.9
33 岡山県	113	86	4.42	0.8
34 広島県	112	84	2.94	0.8
35 山口県	39	24	1.65	0.6
36 徳島県	23	29	3.69	1.3
37 香川県	45	29	2.91	0.6
38 愛媛県	57	55	3.84	1.0
39 高知県	30	24	3.14	0.8
40 福岡県	101	86	1.70	0.9
41 佐賀県	31	34	4.00	1.1
42 長崎県	32	26	1.82	0.8
43 熊本県	77	54	2.97	0.7
44 大分県	49	27	2.26	0.6
45 宮崎県	27	33	2.91	1.2
46 鹿児島県	44	54	3.16	1.2
47 沖縄県	184	262	18.81	1.4
計	4,634	3,032		

資料3

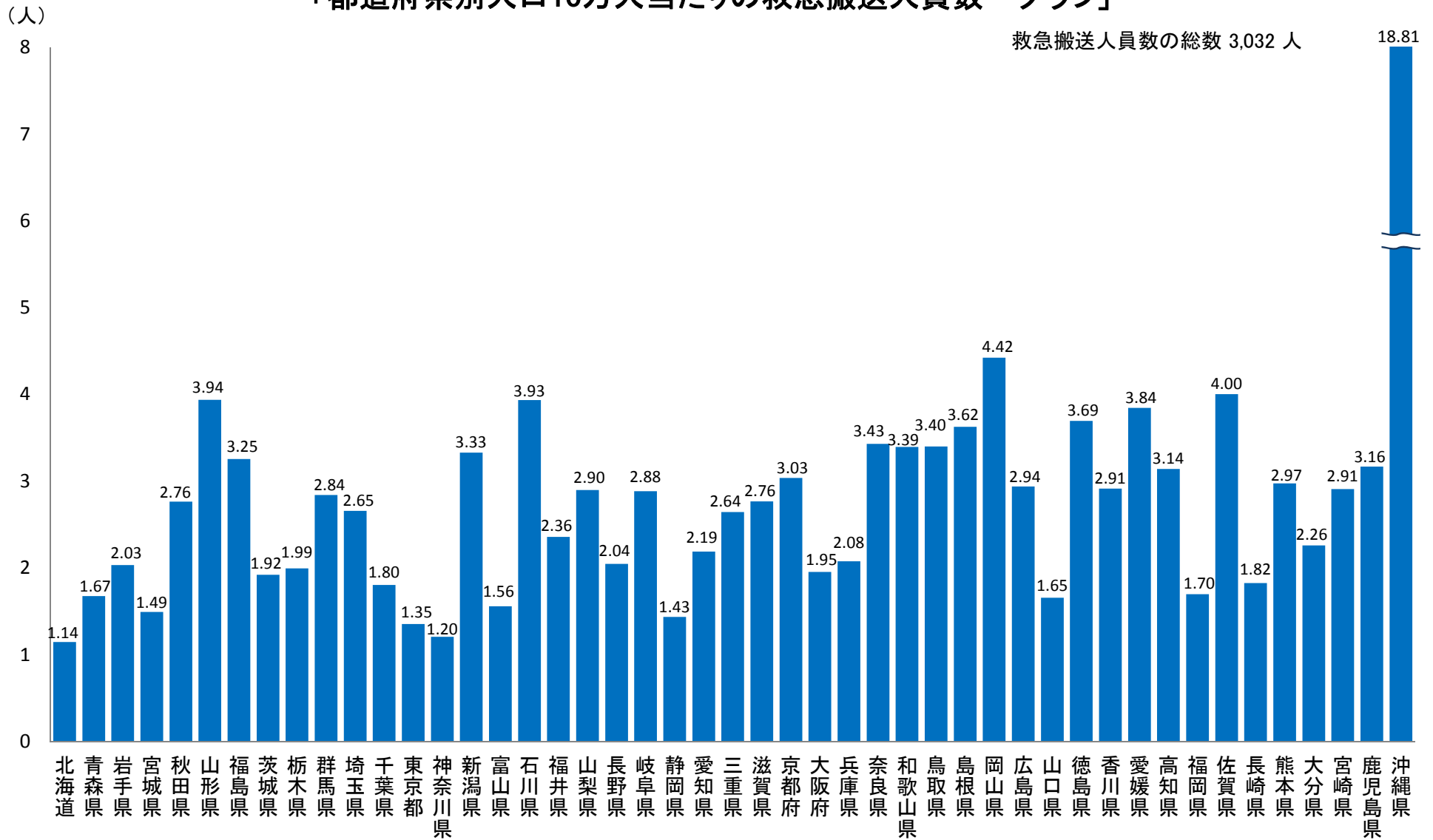
都道府県別熱中症による救急搬送状況
「救急搬送人員数昨年比ーグラフ」



資料4

都道府県別熱中症による救急搬送状況 「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数ーグラフ」

救急搬送人員数の総数 3,032 人



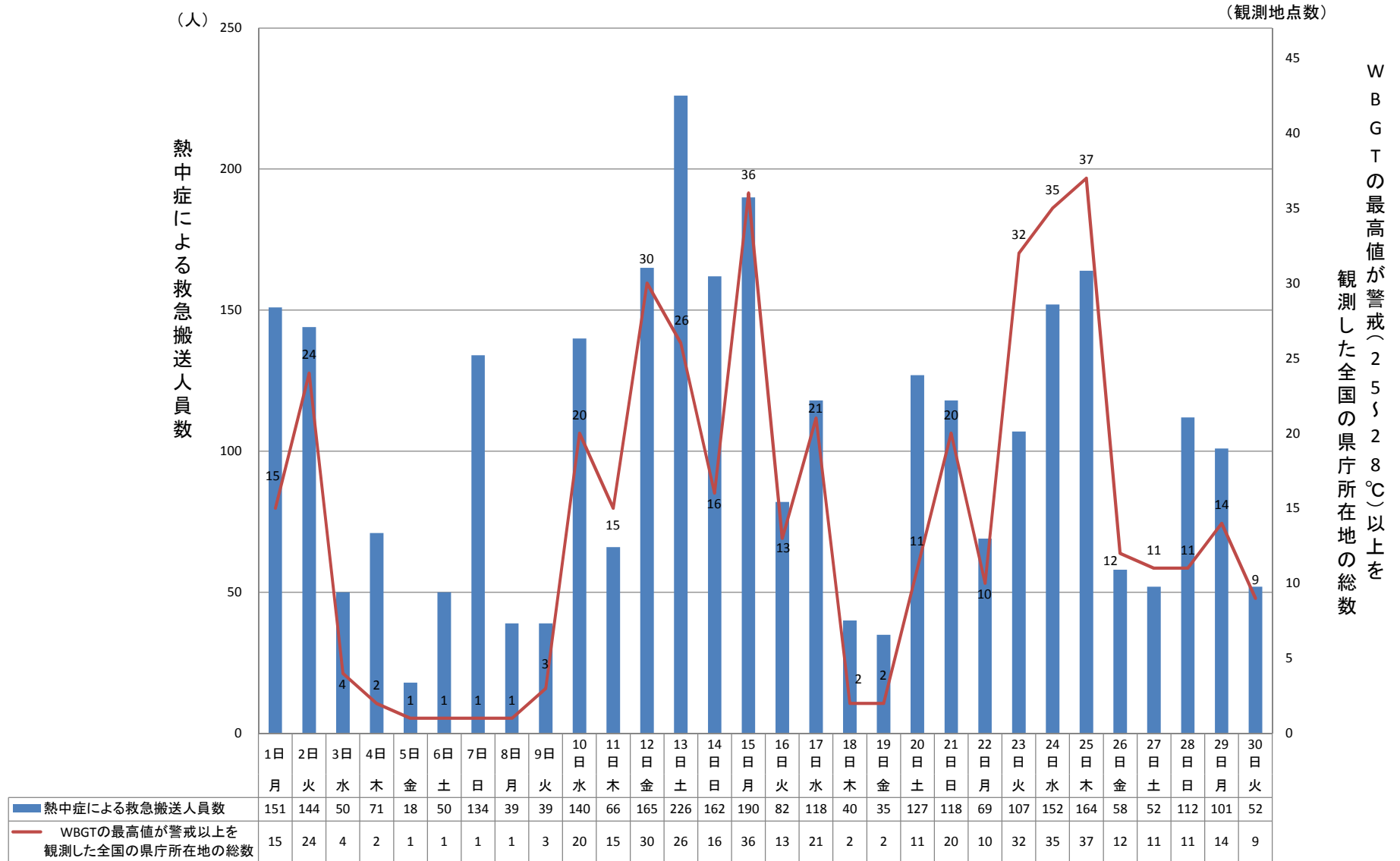
資料5

全国の熱中症による救急搬送状況

「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

日付	曜日	熱中症搬送人員(人)	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
6月1日	月	151	0	4	32	43	72	151	0	1	59	91	0	151
6月2日	火	144	0	1	13	48	82	144	0	3	54	87	0	144
6月3日	水	50	0	1	5	15	29	50	0	1	14	34	1	50
6月4日	木	71	0	1	10	21	39	71	0	1	21	49	0	71
6月5日	金	18	0	0	3	2	13	18	0	2	3	13	0	18
6月6日	土	50	0	0	13	17	20	50	0	1	12	37	0	50
6月7日	日	134	0	1	35	37	61	134	0	2	30	102	0	134
6月8日	月	39	0	0	6	13	20	39	0	0	15	22	2	39
6月9日	火	39	0	0	7	14	18	39	0	1	17	20	1	39
6月10日	水	140	0	2	14	48	76	140	0	1	45	93	1	140
6月11日	木	66	0	2	8	21	35	66	0	2	27	35	2	66
6月12日	金	165	0	2	25	56	82	165	0	4	53	107	1	165
6月13日	土	226	0	4	60	75	87	226	0	7	57	161	1	226
6月14日	日	162	0	2	23	72	65	162	0	5	36	120	1	162
6月15日	月	190	0	3	13	58	116	190	1	4	59	126	0	190
6月16日	火	82	0	1	5	36	40	82	0	4	29	49	0	82
6月17日	水	118	0	2	19	34	63	118	0	1	32	82	3	118
6月18日	木	40	0	2	10	15	13	40	0	3	11	26	0	40
6月19日	金	35	0	1	4	5	25	35	0	1	15	19	0	35
6月20日	土	127	0	1	35	37	54	127	0	0	36	90	1	127
6月21日	日	118	0	0	25	41	52	118	1	5	32	78	2	118
6月22日	月	69	0	0	10	16	43	69	0	3	16	47	3	69
6月23日	火	107	0	1	4	41	61	107	0	2	24	79	2	107
6月24日	水	152	0	2	16	51	83	152	0	2	60	87	3	152
6月25日	木	164	0	3	15	52	94	164	0	2	54	105	3	164
6月26日	金	58	0	0	5	22	31	58	0	3	14	39	2	58
6月27日	土	52	0	0	13	21	18	52	0	1	12	37	2	52
6月28日	日	112	0	3	19	43	47	112	0	0	32	77	3	112
6月29日	月	101	0	1	7	32	61	101	0	1	37	61	2	101
6月30日	火	52	0	0	3	24	25	52	0	1	22	29	0	52
計		3,032	0	40	457	1,010	1,525	3,032	2	64	928	2,002	36	3,032
熱中症の搬送人員に対する割合			0.0%	1.3%	15.1%	33.3%	50.3%	100.0%	0.1%	2.1%	30.6%	66.0%	1.2%	100.0%

日別の救急搬送人員数(全国)と暑さ指数(WBGT)との比較ーグラフ



【参考】暑さ指数(WBGT)とは
暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度):Wet Bulb Globe Temperature)は、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。詳しくは環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

平成22年～27年の熱中症による 救急搬送人員数及び死亡者数一覧一表

(単位:人)

	平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)		平成22年(2010)		
	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	
確定値	5月	2,904	3	調査データなし									
	6月	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14	2,276	4
	7月	月ごとの報道発表で更新していきます。		18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29	17,750	95
	8月			15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27	28,448	62
	9月			1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3	7,645	10
搬送人員数合計	5,936	5	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73	56,119	171	

※平成27年は4月27日から調査を開始

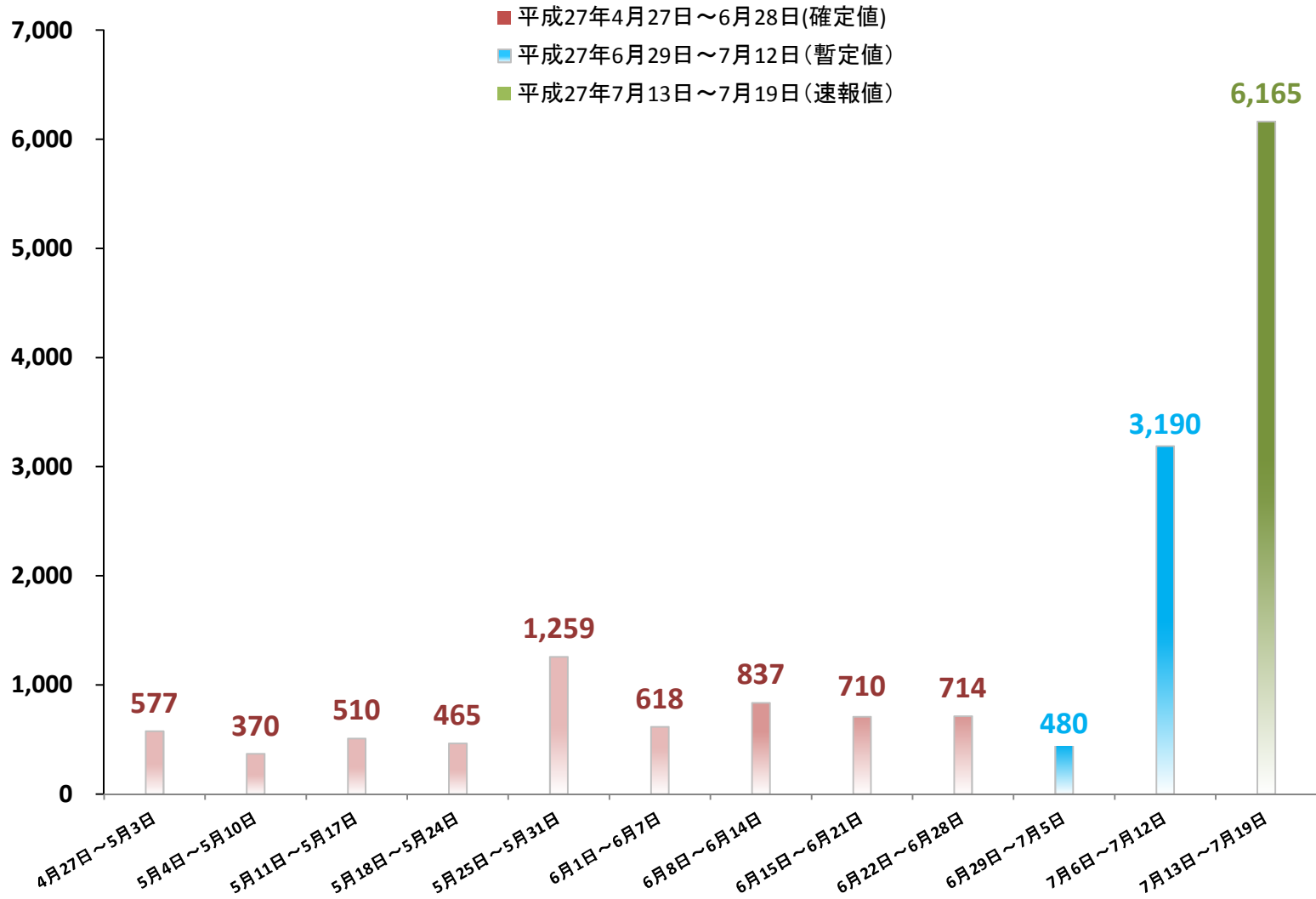
平成26年は5月19日から調査を開始

(参考) 梅雨明けの時期(平成27年7月20日時点)

	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	平成22年(2010)	(平年)
沖縄	6月11日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月19日ごろ	6月23日ごろ
九州	7月17日ごろ(九州南部のみ)	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月17～20日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	7月20日ごろ(中国地方のみ)	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	7月20日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
北陸		7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月24日ごろ
東北		7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月18日ごろ	7月25～28日ごろ

資料8
(人)

平成27年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)ーグラフ

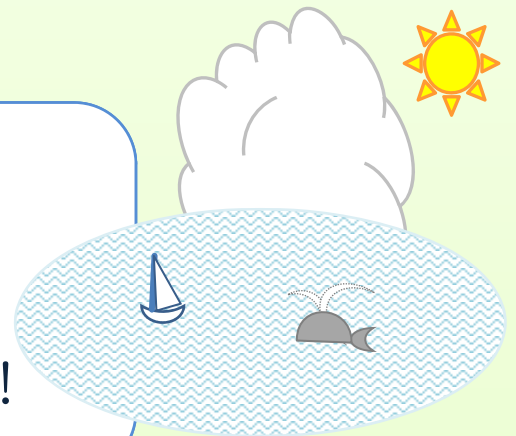


* 暫定値(青)と速報値(緑)の救急搬送人員数は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

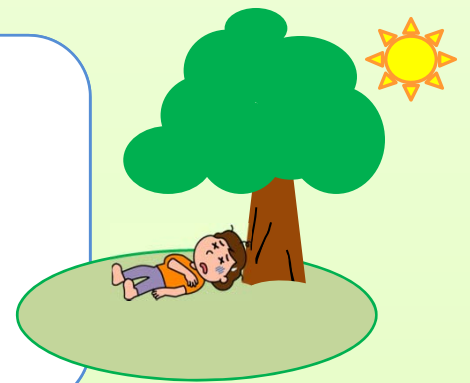
熱中症を予防して元気な夏を！



夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。
熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう！



このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。



救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行くべき状態や症状についても紹介しています。
当てはまる場合は、ためらわずに119番しましょう。

※消防庁が作成した「救急受診ガイド」や、「救急車利用リーフレット」も合わせてご覧ください
(消防庁HP「<http://www.fdma.go.jp/>」の右側のバナーをクリック)



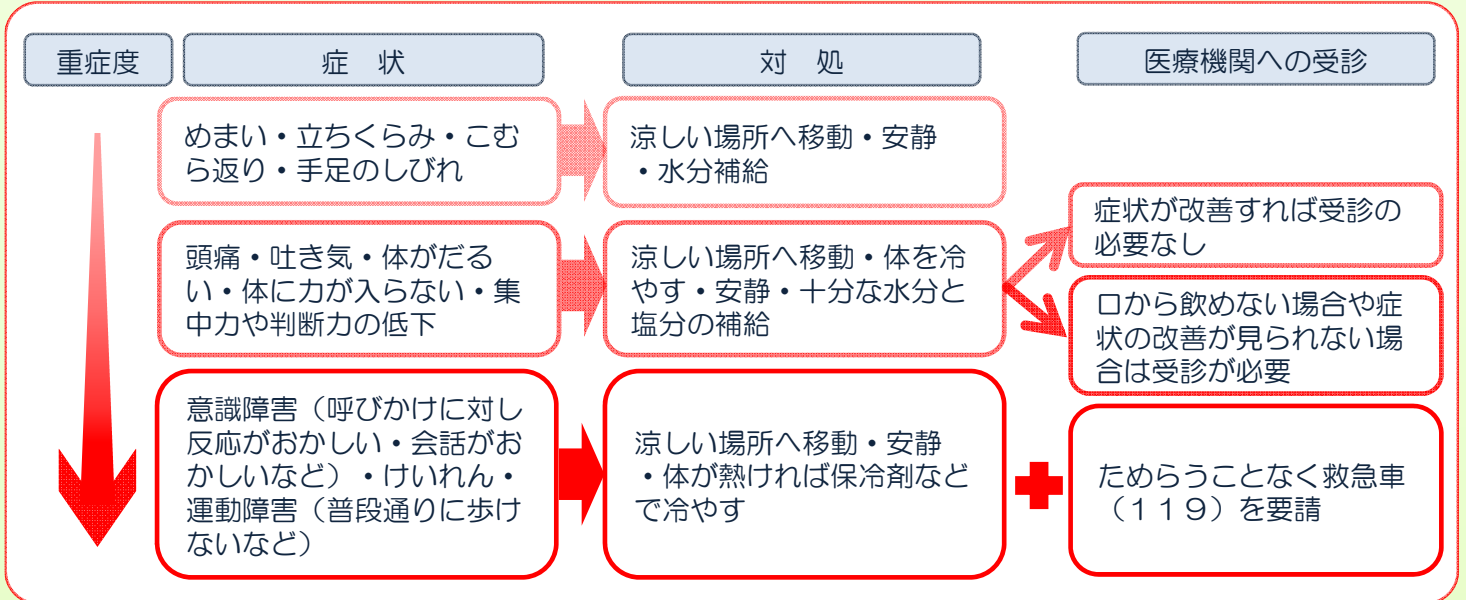
心臓や腎臓、その他持病をお持ちの方は、夏の過ごし方についてかかりつけの医師に相談し、上手にコントロールしましょう。

熱中症とは？

室温や気温が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウム）などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

熱中症の分類と対処方法



こんな時はためらわずに救急車を呼びましょう



- 自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く、動けない場合は、ためらわずに救急車を呼んでください。
- 意識がない（おかしい）、全身のけいれんがあるなどの症状を発見された方は、ためらわずに救急車を呼んでください。

熱中症予防のポイント

- 😊 部屋の温度をこまめにチェック！
(普段過ごす部屋には温度計を置くことをお奨めします)
- 😊 室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう！
- 😊 のどが渇く前に水分補給！
- 😊 のどが渇かなくてもこまめに水分補給！
- 😊 外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日よけ対策も！
- 😊 無理をせず、適度に休憩を！
- 😊 日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりを！



子供の特徴

地面の照り返しにより、高い温度にさらされる



汗腺などが未熟

体温調節機能が未熟なため、**熱中症にかかりやすい**

保護者の方へ

- 👉 お子さんの様子を十分に観察しましょう！
- 👉 遊びの最中には、水分補給や休憩を！
- 👉 外出時の服装に注意し、帽子も忘れずに！
- 👉 日頃から栄養バランスのとれた食事や運動、遊びを通して暑さに負けない体づくりを実践しましょう！

高齢者の特徴

のどの渇きを感じにくい



暑さを感じにくい

汗をかきにくい

体温を下げるための体の反応が弱くなっており、**自覚がないのに熱中症になる危険がある**

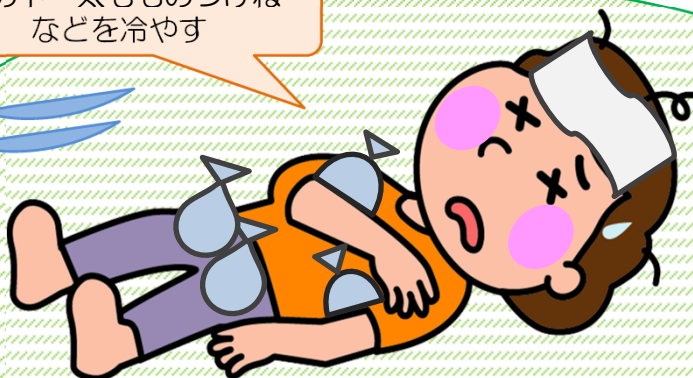
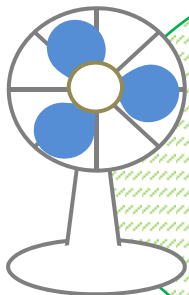
熱中症にならないために

- 👉 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機等を活用！
- 👉 のどが渇かなくても水分補給！
- 👉 調子が悪いと感じたら、家族や近くの人にそばにいてもらいましょう！

+ 熱中症の応急手当 +

- + 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- + エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす

脇の下・太もものつけねなどを冷やす



飲めるようであれば水分を少しずつ頻回に取らせる



🚨 持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう



消防庁では、夏期（6月～9月）における熱中症による救急搬送の全国調査を実施しています。年代別では高齢者が4割を占めており、また、乳幼児と少年を合わせると1割以上となっています。熱中症による救急搬送者のうち、約4割の方が入院しています。

6月～9月の熱中症による救急搬送者の内訳（平成22年～平成26年合計）

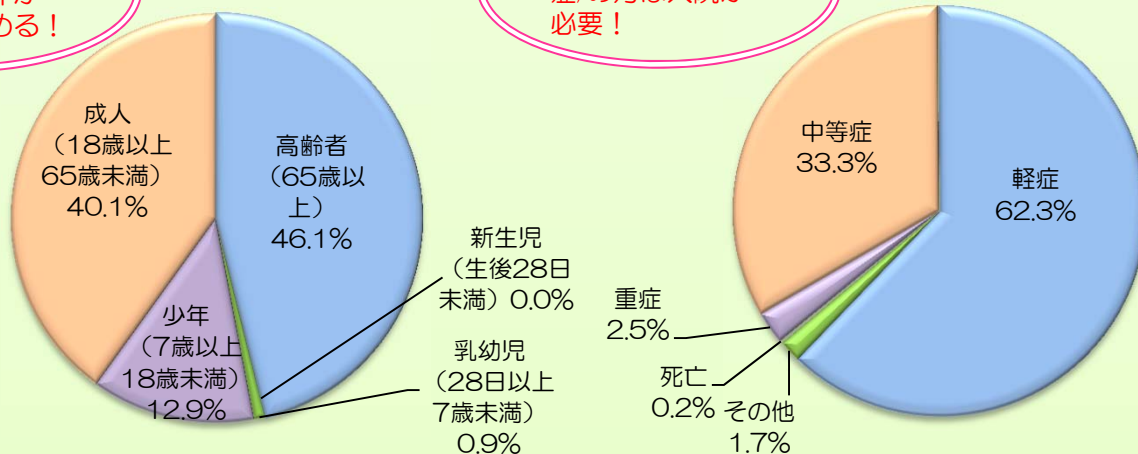
搬送人員計 247,066人

【年齢区分別】

【傷病程度別】

高齢者が約4割、
乳幼児と少年が
約1割を占める！

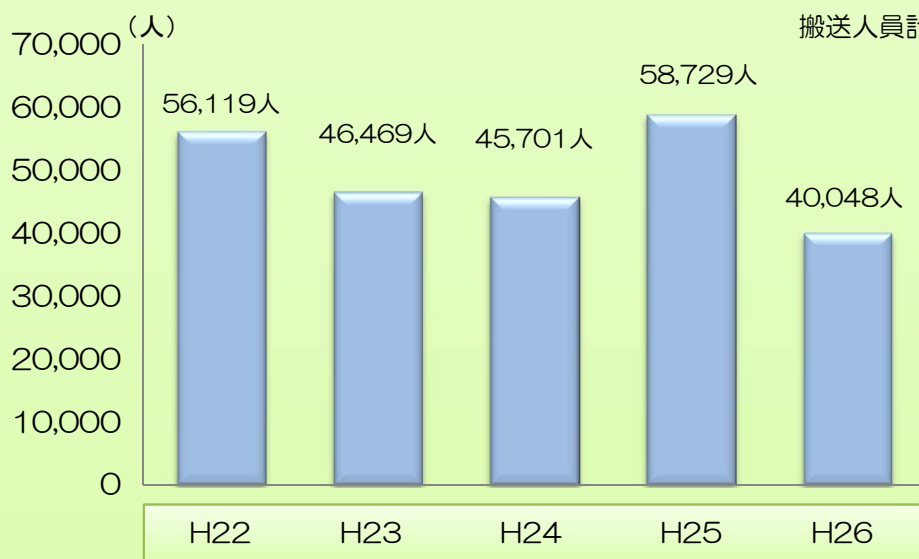
約4割(重症・中等
症)の方は入院が
必要！



熱中症により、毎年約4万人以上の方が救急搬送されています。熱中症による救急搬送者増加の要因として、気温や湿度の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です！！

熱中症による救急搬送者数（平成22年～平成26年 6月～9月）

搬送人員計 247,066人



◆ 消防庁では、HP上で熱中症の救急搬送状況調査の速報を週ごとに公表しています。
URL : <http://www.fdma.go.jp/>

参考

環境省：「熱中症環境保健マニュアル」 http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/manual.html